

元国土交通省熊本河川  
国道事務所長



森田 康夫

える基幹インフラとして、多くの人々に愛されてきました。  
2020年7月の豪雨によつて球磨川流域では甚大な災害が発生し、人々の生活に大きな爪痕を残しました。交通インフラは今でも、肥薩線の県内全区間と湯前線の一部区間が不通。国道219号をはじめ球磨川に架かる仮橋や川沿いの両岸道路は緊急車両や居住者を除いて車両通行が制限されています。

現在、国土交通省八代復興事務所が中心となって道路や橋梁の災害復旧を進めています。現地で指揮を執るのは、私のかつての盟友、熊本地震の際、熊本河川国道事務所でずっと私を支えてくれた百戦錬磨の技術者です。今回は自らの郷里である八代に戻り、県南地域の復旧の最前線で活躍しています。

この地域にとって、国道219号と球磨川の橋梁群、そして肥薩線と湯前線は欠かせない交通インフラです。早期の復旧・復興を願つてやみません。

人吉球磨地域には、国宝の青井阿蘇神社、球磨川下り、球磨焼酎、人吉温泉などの観光資源が豊富にあり、司馬遼太郎は「日本でもっとも豊かな隠れ里」と称しました。この地域を長年支えてきたのが、JR肥薩線とくま川鉄道の湯前線です。

肥薩線は、明治から戦後復興まで多くの人や物を運び、わが国の発展を力強く後押ししてきました。私は明治・大正時代の鉄道遺構を見るため、特急「かわせみ やませみ」に乗つて何度もこの地を訪れました。

一方の湯前線は、球磨盆地の木材を運ぶ鉄道としてスタートし、近年は高校生や地域住民の大事な足として、また観光を支

## よみがえれ、県南の「道」

一筆  
KU

肥薩線は、明治から戦後復興まで多くの人や物を運び、わが国の発展を力強く後押ししてきました。私は明治・大正時代の鉄道遺構を見るため、特急「かわせみ やませみ」に乗つて何度もこの地を訪れました。

熊本地震  
熊本豪雨